

お子さま、ご友人を聖学院に！



聖学院大学大学院

聖学院大学 学務部教務課(入試窓口)
〒362-8585
埼玉県上尾市戸崎1番1号
TEL:048-780-1801
FAX:048-780-1804

| | 出願期間 | 消印有効 | 試験日 |
|-----|-------------------|------|----------|
| 秋期 | 10/29(月)~11/10(土) | | 11/17(土) |
| 社会人 | 12/17(月)~1/7(月) | | 1/12(土) |
| 春期 | 1/28(月)~2月9日(土) | | 2/16(土) |



聖学院大学

聖学院大学 アドミッションセンター
〒362-8585
埼玉県上尾市戸崎1番1号
TEL:048-725-6191
FAX:048-725-6891

| | 主な入試日程 |
|----|--|
| AO | 講義型 : 11/10(土)・12/15(土)・1/19(土)・2/22(金) 英語特別 : 11/10(土)・12/15(土)・1/19(土)・3/6(水) |
| 推薦 | 公募(専願) : 11/10(土)・12/15(土) 特別 帰国生・編入学 : 1/19(土) キリスト教関係者 : 11/10(土) スポーツ : 12/15(土)・1/19(土) |
| 一般 | A日程 : 1/26(土)、B日程 : 2/9(土)、C日程 : 2/22(金)、D日程 : 3/6(水)、E日程 : 3/20(水) |



聖学院中学校高等学校

〒114-8502
東京都北区中里3丁目12番1号
TEL:03-3917-1121
FAX:03-3917-1123

| | 入試日程 | 思考力入試 |
|----------|----------------------------|----------------|
| 帰国生 | 12/8(土) | ものづくり 2/1(金)午後 |
| 一般 | 2/1(金)午前、2/2(土)午前 | M型 2/2(土)午後 |
| 特待・アドバンス | 2/1(金)午後、2/2(土)午後、2/3(日)午後 | 難関 2/4(月)午前 |
| 英語選抜 | 2/1(金)午前 | |



女子聖学院中学校高等学校

〒114-8574
東京都北区中里3丁目12番2号
TEL:03-3917-2277
FAX:03-3917-3680

| | 入試日程 |
|-----|----------|
| 第1回 | 2/1(金)午前 |
| 第2回 | 2/1(金)午後 |
| 第3回 | 2/2(土)午後 |
| 第4回 | 2/3(日)午後 |
| 第5回 | 2/4(月)午後 |



聖学院小学校

〒114-8574
東京都北区中里3丁目13番1号
TEL:03-3917-1555
FAX:03-3917-1554

2019年度の出願は終了いたしました。



聖学院幼稚園

〒114-8574
東京都北区中里3丁目13番2号
TEL:03-3917-2725
FAX:03-3917-1739

| | 入園面接関連日程 |
|------------|-------------------------------|
| 願書配布 | 10/16(火)~10/29(月) 平日午前8時~午後4時 |
| 願書受付 | 10/30(火) 午前8時~正午 |
| 行動観察・保護者面接 | 10/31(水) |



聖学院みどり幼稚園

〒331-0045
埼玉県さいたま市西区内野本郷820
TEL:048-622-3864
FAX:048-625-1822

| | 入園面接関連日程 |
|------|-------------------------------|
| 願書配布 | 10/15(月)~ 平日午前10時~午後4時(土日を除く) |
| 願書受付 | 11/1(木) 午前8時~午前10時 |
| 入園面接 | 11/1(木) 受付順に午前10時より面接開始 |



聖学院大学同窓会会報誌

OCTOBER 2018
VOL.28

大学創立30周年

Memorial Issue

同窓会設立25周年

一人を愛し、一人を育む。



Love God and Serve His People

聖学院大学



清水学長 & 坂村会長・秋谷副会長 対談

「人を愛し、人を育てる」

本年、聖学院大学は創立30周年を迎えました。

2023年には、聖学院神学校創設から120周年を迎え、このための準備も始まっています。

変容する社会情勢の中で、我が母校がどんな状況にあるのか、清水正之先生にお話を伺いました。

管理に慣れた学生たち

坂村 本日はよろしくお願いたします。清水先生には、毎年この時期に学内外の諸事情などのお話を伺っておりますが。本年度はいかがですか。

学長 質問の趣旨から少々脱線しますが、聖学院大学はこれまで「面倒見のよい大学」という形容で広報展開してまいりました。面倒を見るという方法論が高校生にとって有効な訴求であることには違いありませんが、面倒を見た学生が、将来面倒見のよい人に育っていくという帰結を意図させるには至っていなかったという反省がありました。

坂村 タグライン策定の背景ですね。

学長 日本の教育とりわけ公立校では高校まではおおよそ「管理」。それが大学に入ると突然「自主」に切り替わってしまいます。聖学院小・中・高のように、考える教育に力を入れている学校に通われた学生はある種の免疫ができていますが、それはまだ少数です。したがって、多くの大学ではこの受け入れに苦慮しています。「管理」に継ぐ「管理」という環境下で育てられてきた「生徒」たちを、どうしたら「学生」に変質させていくことができるか、そこから始めなくてはなりません。

坂村 確かに大学に入学した時はびっくりしました。最初のガイダンスのときに「今日から皆さんは自由が与えられます」と言われて。正直戸惑いました。先生がおっしゃるように、高校生のときから自由になるための準備が必要だと思えます。

学長 文部科学省では数年前から、大学教育において「自主性を教えなさい」とおっしゃるけれど、本来国がやるべきことは、中等教育においてそのような環境なりしくみを整備することのはずです。もちろん、本学では現実を見据えて対処はしているのですが。

坂村 それは具体的にどんなことなのですか？

学長 そこでタグラインの話ですが、創立30周年を迎えるにあたり、「面倒見のよさ」をベースに、教職員・学生が協働で本学の魅力を見つめ直し集約する作業を行ないました。その結果、導き出された言葉が「一人を愛し、一人を育む」なのです。これは「一人の個性」が「他者に仕える人」になり、「他者とともに生きる人」となるという道筋を示したのもでもあります。本学の学生は、「面倒見のよい」教職員や仲間から愛され、育てられていきます。授業においては、能動的に参加し自分たちで答えを見出すというようなアプローチがなされ、主体的に学ぶ人、そして「面倒見のよい人」へと変容していくというものです。

学生の自己承認要求に応える

坂村 私は、先生方だけではなく、職員のみなさんやゼミの仲間にも助けてもらいました。みな、自分に近い人、というか近いところに誰かしらがいってくれたように思います。当時からそういう土壌はあったのではないのでしょうか。

学長 先生なり職員を近く感じる、ということはとても大切なことですね。入学して間もない学生は不安や戸惑いを感じ、それを誰かに気づい



て欲しいと願っているものです。自発的に行動したとしても、それで大丈夫か、誰かに確認をしたかったり、背中を押してもらいたかったりと、自分を認めて欲しいという欲求に苛まれているわけです。ですから教職員はそうした自己承認要求に応えるということが大事ですね。

秋谷 昨今は、入学前の学生にも対処しているとお聞きしておりますが？

学長 はい。毎年秋口から、次年度の入学予定者を対象に入学前準備学習を実施しています。そこでのエピソードにこんな話があります。2014年から講師としてお招きしている奥富美子先生は、課題を与えて参加者にワークをさせています。そしてその作業中、躊躇せず注意をするのだそうです。注意された学生は当初怪訝な表情を浮かべるようですが、課題に取り組む中で、どんどん変わっていくのだそうです。先生はそのきっかけを見逃さないのです。つまり何かの弾みで自発した瞬間、発信される「認めて欲しい」サインを見逃さず、これを受容し、後押しする。そうすることで、小さな勇気を自主性へと転換しているのです。



適切な課題を適切な時期に与える

坂村 実は私、本年(2018年)5月1日より地元である栃木県下野市の市議になりました。それまでは聖学院小学校の一職員として、組織の命を受けて、ある種限定された形で職務を全うしてまいりました。しかし議員となりますと、事情が違ってきます。もちろん、社長ではありませんから恣意的な判断は許されませんが、多くの意見に耳を傾け、最善な解決策を導く中で、私の下した判断により影響を受ける方がたくさんいらっしゃいます。そういう意味では、面倒を見られていた自分が、ようやく面倒を見る側に足を踏み入れたのかもかもしれません。

秋谷 お二方は「長」として、役職上も「一人ひとりを愛する」立場におられる。保険業を生業としている私もまた職務上同じ行為を行っています。私の場合、校友会や野球部での活動、ヴェリタス祭の実行委員の経験が今につながっていると思います。特に、職員のみなさんの献身的な振る舞いが記憶に強く残っています。面倒を見てもらい、それを肥

やしに自分が誰かの面倒を見る、あるいは面倒を見ているつもりが、逆に面倒を見てもらっていたというような関わり合い方、そういう良き経験をたくさん積ませていただいたように思います。

坂村 市議に立候補する局面は、今回が二度目です。最初の機会は唐突に訪れまして、市議を務めていた父が他界したときです。このときは1ヶ月ほど悩み、まだその時ではないという結論に至り支援者のみなさまからの勧めを辞退させていただきました。今回は、そうした経緯を踏まえ心構えをしてきたこと、さらに地元で私を必要としていることから、機は熟したと判断しました。私からすれば、自分の成長段階に応じた課題と場が与えられたということだと考えています。

学長 たくさんの、溢れんばかりの愛を一方向的に注げば、その人が他者を愛せる人になる、というより、適切な時期に、適切な課題を与えるということでしょうか。そこで、自発的な要求が生まれた瞬間を見逃さず、支援的に関わっていくことかと思えます。そうした行為の連鎖により、愛の受け継ぎ、育てる文化の受け継ぎが成立していくのではないのでしょうか。

育む連鎖

秋谷 同窓の後輩から転職相談を受ける機会がありまして、聞けば、当人は葬儀屋になりたいと言うわけです。葬儀屋になろうと思ったきっかけは同級生の葬儀に参列したときだそうで、やや情緒的な印象を受けました。そこで、葬儀屋の仕事の実際やキャリアについても一緒に確認し、比較対象として私が従事する生命保険業についても説明しましたところ、結果的に私の会社に転職することになり、職業人としても直接的な後輩になっています。自分はどちらかと言うと思ったことをはっきり伝えるタイプで、それを当人がどう受け止めるかまで配慮できていないかもしれませんが。彼が私の意見を聞き、その後二人の関係性がより強まったということは事実です。

坂村 まずはその人に関心を持って、考えてあげることが始まりですね。確かに問題はその先にありますが。

学長 「面倒見がよい」という言葉が曖昧さを含んでいて、見方によっては一種の押し付けがましさも感じます。そういう反省もあって、ビジョンを抜本的に見直そうということで発足したのが長期構想委員会です。既に公開されていますが、2023年度、聖学院は前身である聖学院神学校創設から120周年を迎えます。これに向けて聖学院長期ビジョンを策定し、中期経営アクションプランを交えてSEIG VISION REPORT(2018-2023)を発表しました。財政面や施設・設備面にも踏み込んだ内容です。本年は私自らが出向く形で、聖学院傘下の各学校の教職員に対して順次説明会を開催しています。そういう意味では聖学院関係者の意識統一がなされてきているものと思います。激動の時代に、確



同窓会 副会長
秋谷 大輔

学校法人聖学院
理事長
聖学院大学学長
清水 正之

同窓会 会長
坂村 哲也



かな羅針盤なき航行は避けなければなりません。今回、具体的な指標が定められたことで組織的な一体感がより醸成されていくものと考えます。(SEIG VISIONの詳細につきましては、以下URLをご参照下さい。
<http://www.seig.ac.jp/vision/seig-vision2018-2023.html>)

グローバル化・多様化への対応

学長 聖学院ビジョンの策定過程においては国連のSDGs(サステナブル・デベロップメント・ゴールズ：持続可能な開発目標)の推進活動を展開する国連グローバル・コンパクトへ署名をし、グローバル・コンパクトネットワークジャパンに加入しました。また、LGBTへの理解を深める研修も実施するなどグローバル化、ダイバーシティ化に対して組織的な対応を図っています。一方入試の現場では、本年度新たに130名の留学生を迎え入れました。キャンパスの国際化は今や常態的なものとして捉える必要があります。ICT化の推進も進んでいます。主に聖学院におけるネットワークインフラを論じた内容ですが、AI、ロボット等が本格化する電脳化社会における人間の在り方についても今後議論を深めていくことになるでしょう。

秋谷 企業活動においては国境を超えたコミュニケーションは必然です。当社もシステム開発の拠点は中国です。

坂村 地元の就農者にも外国人が目立つようになりました。彼らは休みよりも収入を得たいという希望から就労意欲が大変旺盛です。

学長 本学の日本語教育は、日本語学校の教職員が留学生に勧めたい進学先、日本留学Awardsにおいて、4年連続受賞に輝くなど外部からの評価をいただいています。外国人向けのリベラルアーツの一貫として日本語を習得していただき、その後は日本語での授業を受講いただくというものです。

秋谷 留学生の方には日本をどう教えていくのですか？

学長 日本のみならず、各国の文化には良いところも悪いところもあると思います。日本文化の良いところをキリスト教的なものと結びつけて、伝えていくということでしょうか。気配りとか、配慮とか、付度というのは日本文化の特徴ですが、それはキリスト教の愛と矛盾しない

ものと思います。文化の履歴を学ぶことで、現象論を理解できるという部分もあると思います。

「人に接し、人の中で生きる」から「人を愛し、人を育てる」の実践へ

学長 大学は、創立30周年を無事迎えられましたが、その間私どもが卒業生に対し、温かい言葉を贈り続けてこられたのかと言うと、この点では率直にお詫びをしなければいけません。その上で、皆さまには是非母校を見守っていただき、一方それぞれの立場でなお一層の奮起をお願いしたいと思います。

坂村 私は自分が「面倒見のよい人になる」という点が終始気になっています。私自身の課題であると再認識しました。今日の大きな収穫です。

学長 是非、後輩を温かく見守って常に関心を持ってください。学校としては、高崎線や宇都宮線などに露出を増やしています。それらは高校生に向けたものではなく在校生や卒業生にも訴求しているものです。財政の許す限り発信をしていきたいと思っています。

秋谷 社会人になって学校を離れてから、出身大学のことを語り合ったり、学生時代を振り返ることが増えてきます。人によってそれが高校時代の部活動だったり受験勉強だったりするかもしれませんが、自分の場合、人との関わりあい方を教えてくれたのは、聖学院大学での協働体験です。自分自身の骨格を作ってくれたと言っても過言ではありません。

坂村 今日の話で気がつきましたが、学生時代の「礼拝」は、他者を思い続けるという点で、人を愛する実践に他なりません。

学長 母校に思いを馳せる状況になったなら、とりあえず母校に足を運んでください！アクションは、そこで行えばよいのです(笑)。

坂村 同窓生の中には実業界で頭角を現す方も出てまいりました。そういう方を交えて今後、自分たちは何ができるかを考え取り組んでまいります。私が聖学院大学で受けた教育は、日増しにその重要性を増している実感があります。改めて御礼申し上げます。本日はありがとうございました。



Commemorative ceremony, 大学創立30周年・同窓会設立25周年 記念式典・ホームカミング

聖学院大学がこの地に誕生してから30年、そして同窓会設立から25周年。今、これらを記念するさまざまな行事、活動が行われています。前身の女子聖学院短期大学の創立からは昨年50周年を教え、そして聖学院の礎がおかれてから120周年を数年後に迎えます。一つの折り返しに重なる歴史の厚みを覚えたいと思います。この折り返しに、これまでの軌跡のなかで歩みをともにしてきた卒業生、そのご家族、そして旧教職員、さらには聖学院大学のファンの方々、地元の大学に関心を寄せて下さる方々とともに、ひとつとなって未来に向けてはじける機会、行事を企画いたしました。どうかみなさん、足をはこんでいただき、大学の活気、現状を実際に目にしてください。私たちは、寄せられてきた信頼と信任に全力をもって応えたいと思っています。



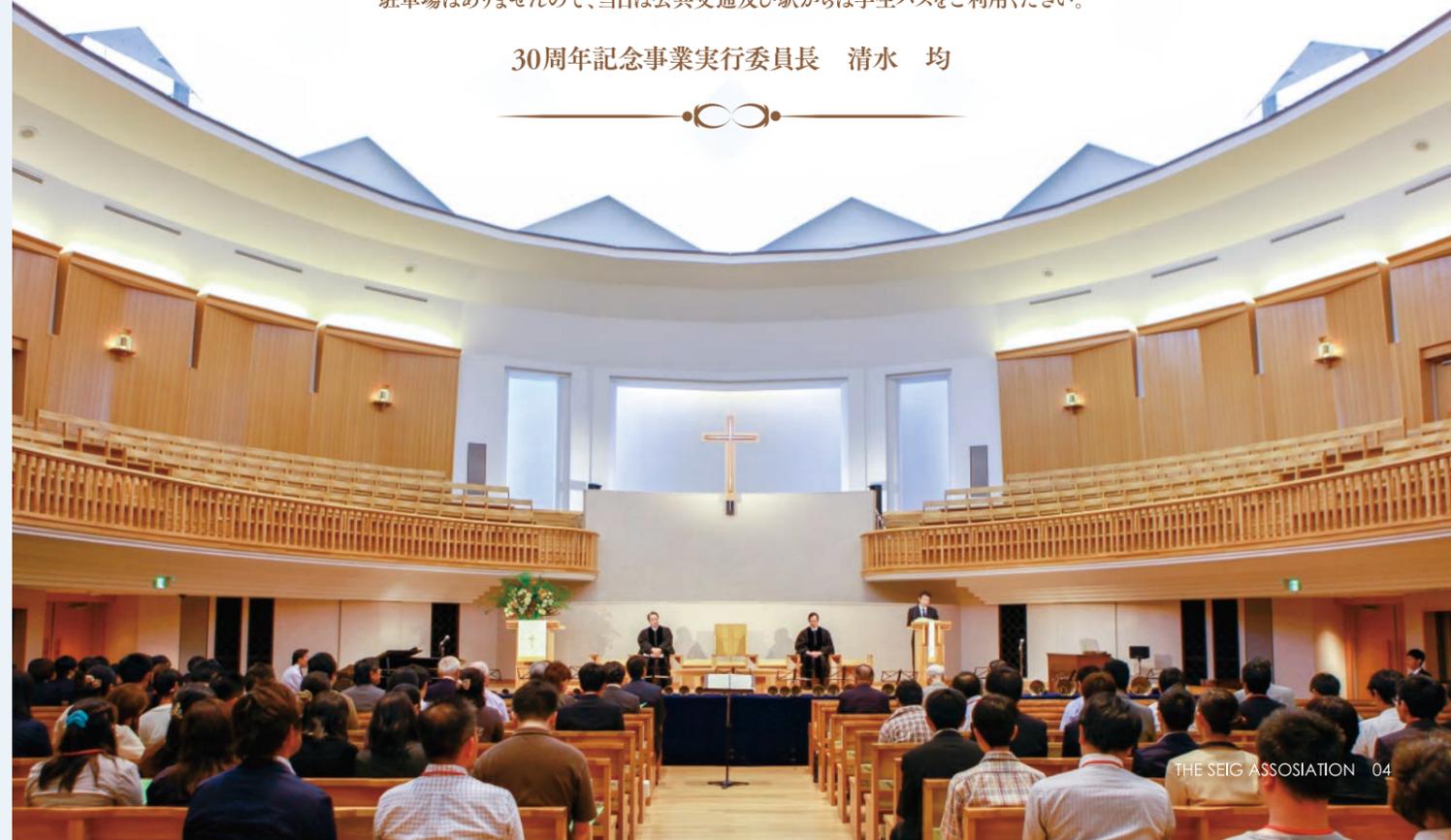
申し込み方法は同封のチケットを参照ください。

日時 12月8日(土) 11:00～

場所 聖学院大学 チャペル・エルピスホール

ホームカミング(懇親会)では軽食を用意しております。卒業生ではないご家族の方(お子様、奥様、旦那様)の参加も可能です。駐車場はありませんので、当日は公共交通及び駅からは学生バスをご利用ください。

30周年記念事業実行委員長 清水 均



Veritas2018 11.2/3

1

同窓会専用ルームで
お待ちしております。



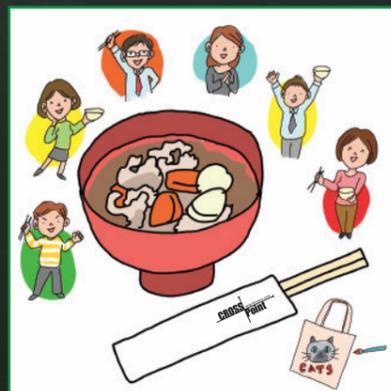
無料のドリンクバーを設ける予定です。例年人気のエスプレッソマシーンもご用意いたしますので、ゆっくりとおくつろぎください。また各卒業年度の卒業アルバムを閲覧いただけますのでお楽しみください。

場所：2403 教室 (予定)



2

豚汁もお楽しみに。



毎年恒例の豚汁をお出しいたします。13時開始予定ですが、材料がなくなり次第終了となりますので、お早めにご来場ください。

(天候、調理進行状況次第で、実施中止あるいは開始時刻の変更が生じる場合がございます。悪しからずご了承下さい)

場所：エルピス館食堂外

時間：13時～なくなり次第終了

同窓会役員一同、美味しい豚汁と
コーヒーを用意しております。
年に一度のヴェリタス祭、是非お越しください。



聖学院大学同窓会 通常総会のご案内

下記の通り通常総会を開催いたします。
ご多忙とは存じますが、ご出席の程よろしくお願いたします。

日時 2018年11月3日(土) 11:00~12:00

場所 聖学院大学 7号館 7101 教室
当日会場の都合により変更となる場合がございます

議案 <1>2017年度活動報告 <4>2018年度予算(案)
<2>2017年度決算報告 <5>質疑応答
<3>2018年度事業計画(案)

当日はヴェリタス祭開催中のため、お車でのご来場につきましてはご遠慮下さいますようお願いいたします。

同窓会の活動

同窓会では会員のみなさまに定期的に会報誌の発行を行い、ホームページにて活動の状況をご報告しております。

年に一度、会報誌をご送付いたします。

会報誌等は卒業時に登録していただいた住所に送付いたします。

総会報告等活動内容につきましてはホームページにてご報告いたします。

ホームページアドレス <http://www.seig-dousou.com>

ご住所を変更される場合、下記の方法でご連絡下さいますようお願いいたします。

HPの場合 専用の入力フォームに変更内容を入力し、送信下さい。

郵送の場合 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1 聖学院大学同窓会事務局宛まで郵送下さい。

E-mailの場合 dousou@seigakuin-univ.ac.jp に送信下さい。
学籍番号・お名前(旧姓/振り仮名)・新住所・電話番号・メールアドレスをご記入下さい。

近年会報誌が住所不明で返送される件数が増加しています。
卒業後お住まいを変更された方は、お手数ですが、登録住所の変更をお願いいたします。

2018年度同窓会研修会実施

今年度も研修会を実施しました。
例年通り、会報誌やヴェリタス祭等、同窓会活動・運営について協議しました。特に、今年は大学創立30周年、同窓会設立25周年を迎えるため、ホームカミング等、成功に向けて激しい議論を重ねました。他のページでも触れていますが、記念式典のために大学と同窓会が一丸となり、準備を進めておりますので、会員の皆様の参加を心からお待ちしております。

